

# 1 自己評価及び外部評価票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790800050		
法人名	西野興産株式会社		
事業所名	グループホーム やまもと		
所在地	香川県三豊市		
自己評価作成日	令和 1年 10月 8日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	令和元年12月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭的な雰囲気の中で、入居者一人ひとりのできることに目を向け、できることを行ってもらいながら日々の生活が楽しく送れるように支援している。</li> <li>・天気の良い日は、近隣を散歩し気分転換を図ると共に下肢筋力の維持に努めている。また、散歩したり、畑作業を通して地域の方との交流が深められるようにしている。野菜作りをすることで、季節感や収穫の喜び・食材への話題が広がるように努めている。</li> <li>・玄関は日中施錠せず自由に出入りができるようにしている。</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

<p>毎日を笑顔で元気に過ごせるよう、毎朝、利用者と職員が理念を唱和することからホームの一日が始まる。開所してまだ10年に満たないが、地域との交流を大切にしており、日頃から散歩時や、ホームの畑で農作業をする際にあいさつを交わしたり、近くのスーパーに買い物に行っている。クリスマスや防災の時期には保育園児が来訪したり、地域の井手ざらえにも参加している。食事は、下ごしらえや盛り付け、洗い物、お膳拭きなど、利用者のできることを積極的に手伝ってもらっている。最近では、頂き物の里いもでコロッケを作るなどした。家族アンケートから、ホームに対する家族の信頼が厚いことがうかがえる。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作り、玄関に掲示している。居間には、サブタイトルを掲示し朝の体操後に唱和し、共有するようにしている。	理念は策定時に入居者に筆で書いたもらったものを玄関に掲示している。また、理念をより具体化したサブタイトルをユニットに掲示し、毎朝、利用者と職員が唱和をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時に挨拶を交わしたり、地域の祭りや畑作業の中で交流が持てるようにしている。井出ざらえに地域の一員として参加したり、保育所の子供と交流をしている。	散歩時や、ホームの畑で農作業をする際にあいさつを交わしたり、近くのスーパーに買い物に行くなど、地域の方との交流がある。また、クリスマスや防災の時期には保育園児が来訪したり、太鼓台が来る。地域の井手ざらえにも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩や買い物に出掛け、挨拶や立ち話の中で、地域の人々に認知症になっても生き生き生活できることを理解していただいている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、地域の民生委員・地域包括支援センター・ご利用者やご家族に参加していただいている。事業所の状況報告や意見交換などを行って、よりよいサービスに繋がれるようにしている。	2か月に1回、民生委員や地域包括支援センター職員、利用者、家族等に参加してもらっている。駐在所の巡査も参加することがある。民生委員からは地域の情報を得たり、巡査には事業所の現状を把握してもらうなど、会議を運営に活かしている。	
5	(4)	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ご利用者の入退時の相談や困難事例については、市役所や地域包括支援センターに相談し助言を得るようにしている。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加しており、事業所の現状を把握してもらっている。また、困難事例の相談をしたり、事故報告書を直接役場に持参するなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定義における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関は施錠しておらず、外に出ようとする利用者には声かけしたり、施設の周辺を一緒に散歩したり、さりげなく話題を変えるなどの工夫をしている。	3か月に1回、身体拘束廃止委員会を開催するとともに、年に2回、研修会を開催している。日中は玄関の施錠はせず、外に出ようとする利用者にはいっしょに寄り添い屋外を散歩するなど、拘束のないケアに取り組んでいる。また、センサーマットを活用して、転倒のリスクに対応している。	

7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常にご利用者の側に立ち、言葉遣いや態度に注意するように話し合っている。また、その都度注意するようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、関係機関と相談しながら支援するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、ご利用者やご家族に納得が得られるまで説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に、ご利用者やご家族に出席してもらい、意見などを外部者へ表せる機会を設けるようにしている。また、ご利用者やご家族に話が聞けるように配慮し、意見や要望が把握できるように努めている。	日頃から、面会時や電話にて家族と緊密にコミュニケーションを取っており、その時に意見や要望を聞いている。また、運営推進会議に家族に参加してもらうなど、外部者へ表せる機会を作っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回職員のミーティングを行い、意見や提案を聞いている。また、その都度個別に話を聴くようにしている。	月に1回のミーティングにて意見や提案を聞いている。ミーティング以外にも、意見や相談があればその都度、聞くようにしている。職員の提案により、利用者の席順や居室のレイアウトを変更した事例もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいや向上心は研修などを通して、各自が成長できるようにしていきたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修に積極的に参加できるように、勤務を配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や三豊事業者協会などの研修会に参加し、同業者と交流が持てるようにしている。		

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、ご本人とご家族に面談を行い、不安を少しでも解消できるように努めている。ご本人が入居について不安がある場合は、見学に来てもらったり、ご本人が希望する環境づくりに努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にはご家族の話を十分に聴き、信頼関係が築けるように努めている。できるだけ、ご家族の要望に添えるようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時に、ご本人・ご家族と面談し、ご本人の納得が得られず入居し環境の変化などによって、精神状態が不安定になったり入居の継続が困難と思われる利用者には、在宅サービスを勧めたり居宅支援事業所を紹介したりしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の食事作りや身の回りの片づけ・洗濯たみなど、ご利用者が活躍できる場面で積極的に取り組めるよう手順を説明し環境を整えるようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	折に触れ利用者の健康面や生活状況について近況報告し、家族間の交流が図れ関係が途切れる事のない様に配慮している。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの病院へご家族に連れて行ってもらうたり、花見や地域の祭りなどにも参加できるように努めている。また、馴染みの人との関係が途切れないように携帯電話の利用を支援している利用者もいる。	携帯電話を所持している利用者が数名おり、使用の支援をしている。また、近所のスーパーや病院受診の際に馴染みの人と会うこともある。花見なども馴染みの場所に出かけている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症状に応じた支援によって、役割りや活動で存在価値を高めたり、互いに助け合う場面では直ぐに介入せず見守り、利用者の考えや行動を尊重する支援を行うようにしている。	

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、必要に応じて相談や支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でご利用者と話をし、希望や意向の把握に努めている。また、ご本人の訴えを尊重し、その人らしい生活ができるように努めている。	入居の際にこれまでの生活歴、趣味、職業などを把握するとともに、日々の生活の中で、会話やレクリエーション、農作業、家事等を通して、その人の好きなことや得意なことを活かすようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴を把握するように努めている。また、ご利用者との会話の中で、これまでの暮らしの把握ができるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや一日の過ごし方を観察し、一人ひとりの現状の把握に努めている。ご本人のできることを、少しでも一緒にするように心がけている。		
26	(10)	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向を確認し、3ヶ月ごとにモニタリングを行って、介護計画に反映させている。月1回職員のミーティングを行って検討し、介護計画に反映させている。	本人や家族に意向を確認し、職員の意見は月に1回のミーティングで聞いて、計画の見直しに反映させている。モニタリングは3か月ごとに行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にケアの実践や日々の様子を記入し、毎朝の申し送りや申し送りノートで情報を共有しながらケアの実践を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要な利用者には往診や理容訪問を行ってもらっている。また、ご家族が遠方の場合や都合によって受診の付き添いができない場合は、受診の付き添いを職員が行っている。		

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りの際には、地域の方々と一緒に楽しめる機会を生み出すように努めている。地域で活動されているフラダンスや紙しばいの方の訪問を行ってもらったり、近くのスーパーへ買い物に行くなど暮らしを楽しむ支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者やご家族の意向を尊重して、かかりつけ医を決めており、受診はできるだけご家族にお願いしている。ご家族が都合つかず受診の付き添いができない場合は、職員が付き添って受診するようにしている。	本人及び家族の希望を大切にしている。家族の協力を得ながら、かかりつけ医との関係を築いている。また、緊急時などは、家族に連絡をして、かかりつけ医に連れていってもらったり、職員が協力医院等に連れていく場合もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のケアを通じ、状態の変化や異常に気付いた時は、看護職に相談し早期対応ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医や医療機関、ご家族と連絡をとりながら、ご利用者に安心していただけるように支援している。入院中は、少しでも早く退院できるように医療機関やご家族と情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合のあり方については、入居時に事業所のできる範囲を説明し、ご本人やご家族と十分に話し合い、事業所ができる範囲の支援を行っている。	入居時に重度化した場合や終末期の対応方針について説明している。原則、看取りは行っていない。状態の変化に応じて、家族と話し合い、特別養護老人ホーム等へスムーズに入所できるよう相談・支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時の対応マニュアルを作成しているが、定期的な訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルや緊急連絡網を整備し、年2回の防災訓練は、ご利用者と職員で行っているが、その他の対策は行っていない。	年に2回、昼夜の火災を想定した防災訓練を実施している。訓練には設備の点検を兼ねて業者に来てもらい、機器の使用方法について説明を受けたり、消火器を使った訓練を行っている。避難訓練は利用者も参加している。	引き続き訓練を行うとともに、水害や地震等についてマニュアルの有効性や避難方法の確認など、検証されたい。また、地域との協力関係も少しずつ築いていくことを期待する。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人が生きてきた暮らし方や価値観を尊重し、敬意を持った関わり方や言葉かけを行うように努めている。	接遇や虐待の研修で職員の意識向上に努めている。気になる言葉遣いなどは、その場で管理者が指導するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が自己決定できるような声かけや場面作りを、できるだけ行うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は、おおむね職員の働きかけで一日のリズムを作っているが、その中でもご利用者のできる力を尊重して、ペースを合わせたり全体の調和を図っている。午後からは、トレーニングマシンを行うことを日課にしているご利用者もいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧水やクリームを使っているご利用者には、声かけして使って頂けるように支援している。また、入浴時や外出時には、衣服の選択を一緒に行うようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや洗い物・お膳拭きなどは、ご利用者と職員と一緒にしている。畑で収穫した野菜の下処理をご利用者に行ってもらったり、収穫した野菜で漬物を作ったりしている。	盛り付けや洗い物、お膳拭きなど、利用者には積極的に手伝ってもらっている。畑で収穫した野菜の下ごしらえや漬物作り、また最近では、頂き物の里いもでコロッケを作るなどした。おやつもお好み焼きやホットケーキと一緒に調理を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人ごとに食事や水分量を記入し、栄養不足や脱水にならないように気を配り、職員間で情報を共有するようにしている。食事量や水分量が少ないご利用者には、ご家族と相談して個別に食べれるものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアができるご利用者には毎食後、声かけや誘導して行ってもらうようにしている。介助が必要なご利用者は、職員の介助により行うようにしている。		

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、声かけや誘導にて、できるだけトイレにて排泄ができるように支援している。ご利用者の状況に合わせてパットの使い分けをしている。	排泄の自立度はさまざまな方が多く、一人ひとりに応じて支援している。重度の方も日中は、できるだけトイレで排泄できるよう二人介助で対応している。また、尿パッドも、昼夜によって使い分けるなど、枚数を減らしたり、夜間の安眠に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の体操や天気の良い日は施設周辺の散歩などの運動を取り入れたり、便秘症のご利用者にはご家族と相談し牛乳やヨーグルトを個別に提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回入浴ができるように支援している。入浴を拒否される利用者には、職員が代わり声かけしたり時間をおいて誘導したり、入浴日を変更したりしている。	入浴は週3回入れるように支援している。拒否をする方もおり、職員を変えて声掛けしたり、日にちをずらすなど柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者に応じた時間で入眠できるように支援している。日中も希望や体調に合わせて休息がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの名前と写真を貼ったカップに薬を入れ準備している。投薬時には、日付け・名前や時間など声に出して誤薬を防ぐようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の生活歴を活かし得意なこと・好きなこと・できること等を提供できるよう支援している。カラオケに外出しているご利用者もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、散歩に出掛けたり近くのスーパーと一緒に出掛けている。季節の花見やドライブ・外食にも出かけるよう心掛けている。	日頃から事業所周辺の散歩や近所のスーパー、畑作業など、屋外に出る機会を確保している。また、季節ごとに花を見に行ったり、景勝地や大型ショッピングセンターなどにも出かけている。家族の協力で、夜にカラオケに出かける利用者もいる。	



50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>基本的に金銭は事務所で管理しているが、ご利用者が財布を手持ちしたいと言い少額を手持ちしているご利用者もいる。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>携帯電話を所持し、家族や大切な人に自ら電話をしているご利用者もいる。また、ご家族から電話があった場合は職員が取り次ぎ、話ができるように支援している。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居間や玄関には季節の花を飾ったり、夏には居間の窓の全面にすだれを立てかけ、日差しを遮光し心地よく過ごせるようにしている。</p>	<p>玄関には、利用者に筆で書いてもらったホームの理念を掲示している。食堂は大きな窓があり、開放感がある。さりげなく季節の花を飾ったり、廊下には行事の際の写真を掲示するなど、季節感や生活感がある。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居間にはソファがあり、気の合ったご利用者で楽しく談話ができるようにしている。</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>テレビや扇風機・ラジオなど、ご利用者が必要な物を持ち込んでもらい、居心地良く過ごせるように努めている。家族の写真を飾ったり、使い慣れたものを持参してもらっている。</p>	<p>洋服がけや好みの家具、テレビや扇風機などの家電製品を自由に持ち込んでもらっている。また、行事で作った作品を飾ったり、家族の写真を貼るなど、居心地よく落ち着いて過ごせるよう工夫している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレ・居室の場所が分かりやすいように、大きな文字で表示している。必要な箇所に手すりを設置したり、居室内のベットやダンスなどの位置を個々に合わせ、安全にできるだけ自立した生活が送れるように支援している。</p>		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作り、玄関に掲示している。居間には、サブタイトルを掲示し朝の体操後に唱和し、共有するようにしている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時に挨拶を交わしたり、地域の祭りや畑作業の中で交流が持てるようにしている。井出ざらえに地域の一員として参加したり、保育所の子供と交流をしている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩や買い物に出掛け、挨拶や立ち話の中で、地域の人々に認知症になっても生き生き生活できることを理解していただいている。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、地域の民生委員・地域包括支援センター・ご利用者やご家族に参加していただいている。事業所の状況報告や意見交換などを行って、よりよいサービスに繋がれるようにしている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ご利用者の入退時の相談や困難事例については、市役所や地域包括支援センターに相談し助言を得るようにしている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定義準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関は施錠しておらず、外に出ようとする利用者には声かけしたり、施設の周辺を一緒に散歩したり、さりげなく話題を変えるなどの工夫をしている。

7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常にご利用者の側に立ち、言葉遣いや態度に注意するように話し合っている。また、その都度注意するようにしている。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、関係機関と相談しながら支援するようにしている。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、ご利用者やご家族に納得が得られるまで説明している。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に、ご利用者やご家族に出席してもらい、意見などを外部者へ表せる機会を設けるようにしている。また、ご利用者やご家族に話が聞けるように配慮し、意見や要望が把握できるように努めている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回職員のミーティングを行い、意見や提案を聞いている。また、その都度個別に話を聴くようにしている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいや向上心は研修などを通して、各自が成長できるようにしていきたい。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修に積極的に参加できるように、勤務を配慮している。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や三豊事業者協会などの研修会に参加し、同業者と交流が持てるようにしている。

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前には、ご本人とご家族に面談を行い、不安を少しでも解消できるように努めている。ご本人が入居について不安がある場合は、見学に来てもらったり、ご本人が希望する環境づくりに努めている。</p>
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居時にはご家族の話を十分に聴き、信頼関係が築けるように努めている。できるだけ、ご家族の要望に添えるようにしている。</p>
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居相談時に、ご本人・ご家族と面談し、ご本人の納得が得られず入居し環境の変化などによって、精神状態が不安定になったり入居の継続が困難と思われる利用者には、在宅サービスを勧めたり居宅支援事業所を紹介したりしている。</p>
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>毎日の食事作りや身の回りの片づけ・洗濯たたみなど、ご利用者が活躍できる場面で積極的に取り組めるよう手順を説明し環境を整えるようにしている。</p>
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>折に触れ利用者の健康面や生活状況について近況報告し、家族間の交流が図れ関係が途切れる事のない様に配慮している。</p>
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている</p>	<p>馴染みの病院へご家族に連れて行ってもらったり、花見や地域の祭りなどにも参加できるように努めている。また、馴染みの人との関係が途切れないうに携帯電話の利用を支援している利用者もいる。</p>
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>認知症状に応じた支援によって、役割りや活動で存在価値を高めたり、互いに助け合う場面では直ぐに介入せず見守り、利用者の考えや行動を尊重する支援を行うようにしている。</p>

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、必要に応じて相談や支援を行っている。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でご利用者と話をし、希望や意向の把握に努めている。また、ご本人の訴えを尊重し、その人らしい生活ができるように努めている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴を把握するように努めている。また、ご利用者との会話の中で、これまでの暮らしの把握ができるようにしている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや一日の過ごし方を観察し、一人ひとりの現状の把握に努めている。ご本人のできることを、少しでも一緒にするように心がけている。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向を確認し、3ヶ月ごとにモニタリングを行って、介護計画に反映させている。月1回職員のミーティングを行って検討し、介護計画に反映させている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にケアの実践や日々の様子を記入し、毎朝の申し送りや申し送りノートで情報を共有しながらケアの実践を行っている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要な利用者には往診や理容訪問を行ってもらっている。また、ご家族が遠方の場合や都合によって受診の付き添いができない場合は、受診の付き添いを職員が行っている。

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りの際には、地域の方々と一緒に楽しめる機会を生み出すように努めている。地域で活動されているフラダンスや紙しばいの方の訪問を行ってもらったり、近くのスーパーへ買い物に行くなど暮らしを楽しむ支援を行っている。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者やご家族の意向を尊重して、かかりつけ医を決めており、受診はできるだけご家族にお願いしている。ご家族が都合つかず受診の付き添いができない場合は、職員が付き添って受診するようにしている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のケアを通じ、状態の変化や異常に気付いた時は、看護職に相談し早期対応ができるようにしている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医や医療機関、ご家族と連絡をとりながら、ご利用者に安心していただけるように支援している。入院中は、少しでも早く退院できるように医療機関やご家族と情報交換している。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合のあり方については、入居時に事業所のできる範囲を説明し、ご本人やご家族と十分に話し合い、事業所ができる範囲の支援を行っている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時の対応マニュアルを作成しているが、定期的な訓練は行っていない。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルや緊急連絡網を整備し、年2回の防災訓練は、ご利用者と職員で行っているが、その他の対策は行っていない。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者一人ひとりに寄り添うような言葉かけや対応を行うようにしている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が自己決定できるような声かけや場面作りを、できるだけ行うようにしている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、できるだけ意向に添えるように柔軟に対応するよう努めている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品が必要なご利用者には在庫を常に確認し、家族面会時に購入してもらい、いつでも化粧品ができるように支援している。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや洗い物・お膳拭きなどは、ご利用者と職員と一緒にしている。畑で収穫した野菜の下処理をご利用者に行ってもらったり、収穫した野菜で漬物を作ったりしている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人ごとに食事や水分量を記入し、栄養不足や脱水にならないように気を配り、職員間で情報を共有するようにしている。食事量や水分量が少ないご利用者には、ご家族と相談して個別に食べれるものを提供している。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアができるご利用者には毎食後、声かけや誘導して行ってもらうようにしている。介助が必要なご利用者は、職員の介助により行うようにしている。



43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、声かけや誘導にて、できるだけトイレにて排泄ができるように支援している。ご利用者の状況に合わせてパットの使い分けをしている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の体操や天気の良い日は施設周辺の散歩などの運動を取り入れたり、便秘症のご利用者にはご家族と相談し牛乳やヨーグルトを個別に提供している。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回入浴ができるように支援している。入浴を拒否される利用者には、職員が代わり声かけしたり時間をおいて誘導したり、入浴日を変更したりしている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者に応じた時間で入眠できるように支援している。日中も希望や体調に合わせて休息がとれるように支援している。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの名前と写真を貼ったカップに薬を入れ準備している。投薬時には、日付け・名前や時間など声に出して誤薬を防ぐようにしている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の生活歴を活かし得意なこと・好きなこと・できること等を提供できるよう支援している。カラオケに外出しているご利用者もいる。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、散歩に出掛けたり近くのスーパーと一緒に出掛けている。季節の花見やドライブ・外食にも出かけるよう心掛けている。

50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>基本的に金銭は事務所で管理している。馴染みの友達と外食しているご利用者には、家族と相談し外出時に自分で支払いができるように支援している。</p>
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>携帯電話を所持し、家族や大切な人に自ら電話をしているご利用者もいる。また、ご家族から電話があった場合は職員が取り次ぎ、話ができるように支援している。</p>
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居間や玄関には季節の花を飾ったり、夏には居間の窓の全面にすだれを立てかけ、日差しを遮光し心地よく過ごせるようにしている。</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居間にはソファがあり、気の合ったご利用者で楽しく談話ができるようにしている。</p>
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>テレビや扇風機・ラジオなど、ご利用者が必要な物を持ち込んでもらい、居心地良く過ごせるように努めている。家族の写真を飾ったり、使い慣れたものを持参してもらっている。</p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している</p>	<p>トイレ・居室の場所が分かりやすいように、大きな文字で表示している。必要な箇所に手すりを設置したり、居室内のベットやダンスなどの位置を個々に合わせ、安全にできるだけ自立した生活を送れるように支援している。</p>